

第35回

うつのみやこども賞だより

平成30年度 4回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『奇譚ルーム』

はやみねかおる／著（朝日新聞出版）



～読んだ本の感想より～

- 横の文の本は、読んだことは無くて、読みづらいと思ったけれど、チャット風になっていておもしろかったです。
- とてもワクワクして、おどろくような結末が待っているととても不思議な本でした。
- 最後にしょうげきのラストがあって、最初から最後までドキドキしていた。
- 9この奇譚を1人ずつ発表していくが、それがこの本の中の「ぼく」の別人格であることにもおどろいたけど、さらに、もう1つのおどろきがあったので、最後まで楽しめた。
- マーダラーがだれなのか、はやく知りたくてページをめくる手がとまりませんでした。
- ラインをそのまま本にするしんせんな本で、奇譚もおもしろかったし、ミステリーもあり、わくわくしました。

『しだれ桜のゴロスケ』 熊谷千世子／著（文研出版）

- この本を読んで「フクロウはやっぱりすばらしい鳥だな」と改めて感じました。
- フクロウの観察や巣箱を作ることで、母をなくした心のきずをいやし、たくましく成長し始める姉弟。心温まる話だった。
- ゴロスケとゴロンが最後で会えてよかった。感動した。
- ゴロンやゴロスケの話に感動した。
- ゴロスケ家族や、李乃たち家族の絆などに感動できました。ときどき入っている絵は、えんぴつで1枚ずついいいにゴロスケの羽をかいいたり、人物もこまかくかいていて良かったです！！
- 全てあたりまえの気持ちだけど、その気持ちを再度教えてくれる楽しい本でした。

『ミコとまぼろしの女王』 遠崎史朗／著（ポプラ社）

- ミコとじいちゃん先生の言い合いがおもしろかったです。古代史オタクのミコが小学生で歴史をいろいろ知っているのにはおどろいたし、美羽の気持ちにも共感できました。
- 内容でよかったと感じるのは、3章の「ミコの仮説」である。かなりワクワクと臨場感を感じた。
- ミコとおじいちゃんとの対決を中心に物語が進んでいて、読みやすかった。ミコたちがそう難したり、ドキドキしながら読めました。
- 古代史のなぞを追い、山に行ったミコたち4人が山でそうなんしてしまったところはドキドキしたが、無事にもどることができ、よかったと思った。
- ミコのちしきのほうふなところがすごいと思いました。ミコと大学の先生の会話がおもしろかったです

『ルソンバンの大奇術』 牡丹靖佳／著（福音館書店）

- カミナリのマジックがとてもおもしろいと思いました。
- マジシャンのルソンバンの手から本物の雲や、ほしのつぶがとびだしてくるのにおどろきました。また、雲でふくらましたパンをたべてみたいと思いました。
- ルソンバンのマジックがま法みたいでかっこよかったです。
- ルソンバンのマジックは読んでいても伝わってきた。
- ルソンバンとテレピンが変そうしてペレを助けに行くところがとてもおもしろかった。